

一関ふるさと学習院

令和3年度
受講生大募集

平泉と奥の細道



金色堂旧覆堂



立石寺 五大堂、開山堂、納経堂

2021年、平泉の世界文化遺産が登録10周年を迎え、また、「奥の細道サミットin平泉・一関」が開催されます。

この記念すべき年に、「平泉と奥の細道」をテーマに講座を開催します。矢立て初めの地の芭蕉、平泉と芭蕉、俳聖芭蕉を慕った地元の俳諧師。移動研修は、出羽路で芭蕉翁に出会う旅です。

講座を受講し慣れ親しんだ奥の細道を再発見してみませんか。



金色堂



一関市指定史跡 追街道一里塚

募集要項

【開催期間】 令和3年6月～10月の全4回（詳細は裏面をご参照ください）

【定員】 各回40名（先着順）

【受講料】

	室内講座	現地探訪 (バス代・昼食・入館料込)	受付
会員	無料	3,500円	5月10日(月)から
一般	全3回：3,000円 1講座：1,200円	4,000円	5月24日(月)から

(欠席の場合、受講料の返金はありませんので、ご了承ください)

【申込方法】 裏面の受講申込書にご記入の上、お申込みください。

【お問合せ】 NPO法人一関文化会議所（一関文化センター内）TEL：0191-32-4333

主催：  NPO 法人一関文化会議所

NPO法人一関文化会議所 令和3年度「一関ふるさと学習院」

平泉と奥の細道

講座計画表・受講申込書

回	開催日時	会場
	内容	講師
1	6月16日(水) 14:00~16:00	一関文化センター小ホール
	奥の細道矢立初めの地「千住」と松尾芭蕉 元禄2年3月27日、松尾芭蕉は江戸から奥の細道の旅へと出立しました。旅の最初に矢立初めの句「行く春や鳥啼き魚の目は涙」を詠んだのが千住の地(現東京都荒川区・足立区)です。千住は日光道中の初宿が置かれた江戸の北のゲートとして発展した地域で、旅を愛した芭蕉、諸大名をはじめ多くの旅人が行き交いました。芭蕉がどのような思いで千住の地を踏んだのか、そして、後世の人びとが奥の細道ゆかりの千住をどのように見つめて来たのかを考えます。	荒川区立荒川ふるさと文化館 上級総括学芸員 野尻 かつおる 氏
2	7月14日(水) 14:00~16:00	一関文化センター小ホール
	おくのほそ道の平泉 芭蕉にとって平泉は旅の目的地のひとつだったようです。『おくのほそ道』平泉の章段と曾良の随行日記から、彼らが目指した平泉の名所旧跡を訪ね歩いてみたいと思います。	平泉文化遺産センター 参与 千葉 ^{のぶたね} 信胤 氏
3	9月15日(水) 8:00~17:00(予定)	集合場所 一関市総合体育館(ユードーム)
	出羽路に誘う 「閑さや岩にしみ入る蝉の声」と詠まれた立石寺を訪ね、句碑や蝉塚など奥の細道関連の世界に触れます。山形県立博物館では出羽の歴史文化を体感します。	見学予定地 ・宝珠山立石寺 ・山形県立博物館
4	10月13日(水) 14:00~16:00	一関文化センター小ホール
	磐井の芭蕉句碑と俳諧師 磐井地方に点在する芭蕉の句碑の紹介と当地方において活躍した俳諧師たちについてお話しします。	一関市博物館 学芸員 鈴木 ^{ゆうき} 雄己 氏

下記のとおり申し込みます。

令和 3 年 月 日

ふりがな					TEL
氏名					FAX
住所	〒				
受講希望回に ○印をつける	1	2	3 (現地探訪)	4	
受講料	会員	無料	無料	3,500円	無料
	一般	1,200円	1,200円	4,000円	1,200円

※一関文化会議所会員(年会費3,000円もしくは2,000円)は受講料(現地探訪を除く)が無料となります。

※第1回講座・第2回講座・第4回講座を申し込み場合、受講料は3回分で3,000円となります。

※市内現地研修、現地探訪のみ申込の場合、一関文化会議所会員、室内講座受講者を優先して受付しますのでご了承ください。

個人情報「一関ふるさと学習院」運営の目的のほかには利用しません。